

珍奇植物 *Subularia aquatica* L. (アカマロサウ)

大井次三郎

吉井良三

今夏、田中阿歌磨子の北千島探險隊と一所に、北千島三島の植物を採集して廻つたとき、幌筵島の南端に近い武蔵灣の漁場の附近の、水の乾れて了つた泥沼の上に、一見ツメクサの出來の悪いものゝやうな姿の小草がクツ付くやうに生えて居た。よく見ると、Capsule の様子など、十字科のものらしいので、これはこれとはばかり此の小さい奴に三十分餘を費して集めて歸つた。この植物は、その後同島の播鉢灣に於ても發見したが、此處でも漁場の後方の、沼が用水のために乾上つた處に生えて居た。

調べて見ると、之は標題の如き學名を有するもので、無莖で針狀根出葉を有するが、全長は花序を含めて一センチばかり、恐らくは本邦産のものゝ内で最小の顯花植物と思はれる。

今までの産地は、アジヤでは、カムチャツカ半島、及びトムスク地方で、北千島は第三の産地である。世界における分布は、ヨーロッパでは廣くスカンデナヴィアの北端よりピレネー山脈に及び、北米大陸では、アラスカ・ラブラドルより、カリフォルニアにまで及んで居るが、元來の性質は極地性である。

和名は種名を考へ、同時に子爵に Dedicate する意味に於て、アカマロサウとしたい。

Subularia aquatica LINN. Spec. Plant. (1753) 642 ; LINDM. Svensk Fanerogamfl. (1918) 274 ; HULTÉN Flor. Kamtch. 2 (1928) 145.—Hab. *Northern Kuriles* ; ins. Paramushir : Raisha (J. OHWI et R. YOSHII n. 6065) ; Suribachi (J. OHWI et R. YOSHII n. 4739).—New to the Flora of Japan! (J. OHWI et R. YOSHII).

ヌマガヤとヌマドゼウツナギ

大井次三郎

樺太で初め記載された *Scolochloa spiculosa* FR. SCHM. はヌマガヤでなくてドゼウツナギの類である事を發見したので私は東京植物學雜誌 45 卷 382 頁 (1931) で *Glyceria spiculosa* OHWI と變更しておいた。所がその後露西亞の禾木専門家 ROSHEVITZ から氏の Reprint を貰つたが、それによると既に 1929 年に同じ事實を發見して *Glyceria spiculosa* ROSHEV. と改めて居るので私の組合せは全く不用に歸してしまつ